

平成30年度 自己評価計画書 (最終評価)

石川県立金沢商業高等学校

No. 1

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	評価・集計結果	前期の成果と後期への課題
1 生徒の学習意欲を高める授業を実践し、確かな学力を身に付けさせるとともに、表現する力・伝える力を育成する。	① 生徒の授業に取り組む姿勢を改善する事により、主体性を引き出し、学力の向上につなげる。	教務課 各教科	授業に主体的に取り組めたと感じる生徒の割合が、  A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC、Dの場合、授業方法及び内容を検討する。	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査	評価：B 後期生徒による学校評価アンケート結果 全体75% 1年73% 2年73% 3年77%	調査は「授業への興味・関心」について行っており、学年間の若干の上下はあるものの、前期とほぼ同じ数値となった。3年生は課題研究など探究心を喚起する専門の授業が多いため、80%に近付いてきた。引き続き学ぶ喜びを喚起する工夫をしていきたい。
	② 対話的な学習を通して知識を相互に関連付け、より深く学習することが可能となる授業を推進する。	教務課 各教科	対話を通して知識の深化に努める授業を実践した教員の割合が、  A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC、Dの場合、改善策を検討する。	前期、後期に教職員を対象にアンケート調査	評価：A 後期教職員を対象としたアンケート結果 全体82%	80%以上の状況は維持できたが、前期の94%からはかなり低くなっている。後期は、簿記や情報処理などの検定試験が多く、知識を詰め込む学習が多くなったためと考えられる。年間を通してコンスタントに、対話を通して知識の深化に努める授業を計画的に取り入れる必要がある。
	③ 授業を中心に、学校生活全般を通じて、表現する力・伝える力を育成する。	教務課 各教科 各学年 生徒指導課	「表現する力・伝える力が向上した」と感じる生徒の割合が、  A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC、Dの場合、方法及び内容を検討する。	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査	評価：D 後期生徒による学校評価アンケート結果 全体59% 1年60% 2年59% 3年57%	全体として60%に到達できなかったが、全学年とも前期よりは改善された(前55%→後59%)。対話的な学習から一步踏み込み、全体の場で生徒が発言する機会を増やしていく必要がある。特に課題研究等で発表する機会の多くなる3年生を強化していきたい。
	④ 各種検定試験の取組を通して学習意欲を高める。	教務課 各教科	3年次の全商検定1級3種目の取得者が、 A 180人以上である B 160人以上である C 140人以上である D 140人未満である	評価がC、Dの場合、指導方法及び内容を検討する。	年間を通じて調査	評価：C  152名	全商検定1級の取得は、本校の大きな学習目標の一つであり、生徒のモチベーションも高い。ただ、情報処理などの検定試験には、近年新しい傾向の問題が出題されており、対応しきれない現状もある。応用力につながる基礎力をつける工夫が必要である。
	⑤ 家庭学習と授業の連携を図り、学習習慣の確立と学力の向上を目指す。	教務課 各教科	家庭学習にしっかりと取り組む事ができている。 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC、Dの場合、指導方法及び内容を検討する。	年間を通じて調査	評価：D 後期生徒による学校評価アンケート結果 全体38% 1年38% 2年32% 3年43%	簿記、外国語等を中心に家庭学習の定着を図っているが、成果として表れていない。家庭学習については、チェック体制をしっかりとしないと、学力差の拡大に繋がる一面もある。学校全体でのカリキュラムを見据えた検討が必要である。
学校関係者評価委員会の評価		「表現する力・伝える力」については、小・中学校、高等学校で力を入れてきているためか、大学等でもプレゼンテーションなどの面では良くなっている。学校間で連携した取り組みにより、さらに伸ばして欲しい。					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		中学校、大学、企業等と連携し、伝える力について高校が果たすべき役割を洗い出す。特に実学を学ぶ商業高校としての改善策を考え、実践する。					

平成30年度 自己評価計画書 (最終評価)

石川県立金沢商業高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	評価・集計結果	前期の成果と後期への課題
2 ビジネスマナー教育、実践教育、国際理解教育、おもてなし教育の更なる充実に取り組む。	① 相手の顔と目を見たさわやかな挨拶を日常的に実践し、社会に貢献できる生徒の育成に取り組む。	生徒指導課 特活課	年間を通して相手の顔と目を見たさわやかな挨拶ができたと感じる生徒の割合が、 A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である	評価がC・Dの場合、指導方法を検討	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査	評価：B 後期生徒による学校評価アンケート結果 全体91% 1年89% 2年91% 3年93%	就職準備期など外部の来校者が多い前期に比べ、後期は全体的に若干の低下が見られた。商業高校としての挨拶の大切さについては、年間を通して、学校全体で繰り返し確認をし、強化していく必要がある。
	② 生徒指導が主体となり、公安委員・生徒会執行部と協力しながら遅刻0の徹底を推進していく。	生徒指導課 各学年	遅刻0の日が年間を通じて、 A 120日以上である B 100日以上である C 80日以上である D 80日未満である	評価がC・Dの場合、指導方法を検討	年間を通じて調査	評価：A 年度末124日	3月末現在の遅刻ゼロの日は、昨年より多い124日となっており、概ね目標は達成できる見込みである。保護者、生徒の連絡体制も良好であり、今後もこの状態を維持していきたい。
	③ 商業教育実践の貴重な場となっている金商デパートの運営に積極的に取り組む。	特活課	金商デパートにおいて、学校で学んだことを生かせたと感じる生徒の割合が、 A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	評価がC・Dの場合、運営方法を検討	金商デパート終了時に、全生徒にアンケート調査	評価：C 後期生徒による学校評価アンケート結果 全体88% 1年 未実施 2年 87% 3年 88%	全体として90%に近いので、概ね良好であると言えるが、学校で学んでいる商業科目と、金デパでの実技の関連性について、より理解を深める工夫が必要である。特に販売・サービスに関するマーケティング系の学習の知識を実技と結びつけていきたい。
	④ 英語のコミュニケーション能力と活用力の向上に取り組む。	英語科	STEP英検準2級（またはそれと同等の資格）以上を取得した人数が前年比、 A 30%以上向上した B 10%以上向上した C 前年度と同等である。 D 前年度を下回った	評価がC、Dの場合、英語学習が必要であることを認識させるために講話等の内容や機会を検討する。	年間を通じてSTEP英検準2級以上の合格者数を調査	評価：A 2.22倍  平成30年度 2級7名、準2級13名 計 20名  平成29年度 2級5名、準2級4名 計 9名	これまで、全商英語検定中心の取組であった本校にとって、STEP英検は新たな挑戦といえる。外国語の現行カリキュラムで検定試験対策をすることは難しく、生徒の自主性を喚起していく必要がある。今後は、進学希望者を中心に進路への検定試験の有用性をアピールし、受験者を増やすところから取り組んでいきたい。
学校関係者評価委員会の評価		挨拶や生徒指導の面では、高い評価をしている。しかし、就職前の面接等の様子を見ていると、バイタリティという面では物足りなさを感じることもある。金商デパートなどの実践的な取り組みをもっと活用していくと良いのではないかと。					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		挨拶や基本的な生活の良好な面については、今後も高い目標を持って維持していく。バイタリティという面では、いろいろな取り組みを見直し、改善していく。					

平成30年度 自己評価計画書 (最終評価)

石川県立金沢商業高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	評価・集計結果	前期の成果と後期への課題
3 生徒の希望する進路実現に向けて、各学年に応じた計画的なキャリア教育に取り組む。	① 就職希望者に対して、企業ならびに同窓生と連携を深め、各種ガイダンス機能の充実と希望企業への実践的な面接指導を実施して、進路実現を図る。	進路指導課 (就職) 3学年	就職希望者において、ガイダンスや面接指導を通じて希望の職種・業種への進路実現を達成できたという生徒が、 A 95%である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	C・Dの場合、 取り組みを検討	前期、後期に、3年生就職希望の生徒を対象にアンケート調査	評価：B 後期生徒による学校評価アンケート結果  3年94%	後期は、進路実現に向けた具体的な事項が多く、また、求人状況も良かったことから、数値は前期より上昇した(前90%→後94%)。7月の求人受付から始まり、限られた状況の中で、進路の決断と準備をしていかなければいけないが、3年生は良く努力できていた。
	② 進学希望者に対して、補習やガイダンスの指導・働きかけを工夫、志望分野・志望校への進学意識を早期より高める。	進路指導課 (進学) 2学年 3学年	進学希望者において、しっかりとした目的意識と学習意欲を持って受験勉強に取り組む、学力を向上させることができたと答えた生徒が、 A 80%以上である B 75%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C・Dの場合、 取り組みを検討	前期、後期に、2・3年生進学希望の生徒を対象にアンケート調査	評価：A 後期生徒による学校評価アンケート結果  全体85%  2年74% 3年94%	後期は、進路選択が事前に迫った3年生については、数値も前期より上昇した(前91%→後94%)。一方、2年生については、具体的な努力事項が不明確なためか、前期よりも悪くなっている(前76%→後74%)。進学については学年を跨ぎ、長期的な視野に立った指導が必要であり、2年生の努力目標をしっかりと示し、努力させていくことが必要である。
	③ 1年生に対して進路ガイダンスを計画的に行い、進路実現に向けた取り組みを充実させる。	進路指導課 第1学年	進路の実現に向けて、具体的な進路希望が設定できたと答えた生徒が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C・Dの場合、 取り組みを検討	前期、後期に、1・2年生の生徒対象にアンケートを調査	評価：B 後期生徒による学校評価アンケート結果  1年76%	年間を通じて総合的な学習の時間を中心に、キャリアガイダンスを行っている。後期は、コース選択を行っていることもあり、カリキュラムと将来の目標を重ね合わせて考える機会が多く持てた。若干数値が悪くなったものの、70%はキープできている。
学校関係者評価委員会の評価		面接指導では、定番の答え以外に臨機応変に答えられない生徒も多い。企業について知ったり、ニュースに興味を持たせたり、これまでも行っているようだが、より一層の努力をして欲しい。					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		キャリア教育については、マンネリ化することのないように、定番となっている取組も見直し、工夫改善していきたい。					

平成30年度 自己評価計画書 (最終評価)

石川県立金沢商業高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	評価・集計結果	前期の成果と後期への課題
4 心身の健康と豊かな人間性の育成に向けて、部活動、特別活動等の更なる充実に取り組む。	① 運動部の県大会において、優勝を目指す。	特活課	県大会でベスト4以上の運動部が、 A 9部以上である B 8部である C 7部である D 7部未満である	評価がC・Dの場合、指導を検討	大会報告書による調査	評価：A	年間を通して、野球部、陸上部、卓球部、男・女バレーボール部、女子バスケットボール部、ソフトテニス部、バドミントン部、少林寺拳法部がベスト4以上、北信越大会3位のチアリーディング部含めると10部となる。
	② 文化部・商業部の県大会（総文・新人）において団体優勝のべ4競技以上を目指す。	特活課 商業科	県大会（総文および新人）で団体優勝をする競技が、 A のべ5競技以上である B のべ4競技以上である C のべ3競技である D のべ2競技以下である	評価がC・Dの場合、指導を検討	大会報告書による調査	評価：A	年間を通し、県高文連商業部大会では、情報処理競技、珠算競技・電卓競技、ワープロ競技、簿記競技、英語の5競技が団体優勝した。
	③ 各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動等の充実、活性化を目指す。	特活課	各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動に自主的に取り組んだ生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC・Dの場合、活動内容や取り組み方を検討	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査	評価：B 後期生徒による学校評価アンケート結果 全体63%  1年68% 2年60% 3年61%	吹奏楽部、チアリーディング部など地域の活動に積極的に参加している部活動がある一方、学校として取り組む清掃などの地道なボランティア活動が少なかった。今後改善していきたい。
	④ 校舎内の清掃をきちんと行い、節電・節水に努め、ゴミの分別をきちんと行う意識を全生徒が持ち、自主的に行動することを目指す。	保健課	清掃をきちんと行い、節電・節水に努め、ゴミの分別をきちんとできる生徒の割合が、 A 98%以上である B 95%以上である C 90%以上である D 90%未満である	評価がC・Dの場合、指導を検討	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査	評価：B 後期生徒による学校評価アンケート結果 全体95%  1年生94% 2年生95% 3年生97%	後期は、体験入学や金商デパートなど、外部の人達を受け入れる機会が多く、校舎内外の清掃機会も必然的に多くなった。生徒のアンケートにもそのあたりが反映されている。部活動の自主的な清掃もあり、比較的良好な状況は保っている。
	⑤ 「石川県いじめ防止基本方針」に則り、いじめを起こさない学校づくりに努める。	全教職員	いじめの未然防止に向け、意識的に行動をしている教員の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	評価がC・Dの場合、啓発活動などの改善策を実施	前期、後期に全教職員を対象にアンケート調査	評価：A 後期教職員による学校評価アンケート結果 全体94%	いじめの防止については、学校としての最重点事項の一つであるが、その範囲、軽重も含め調査や対応は難しい一面もある。生徒の後期調査では、いじめを受けた件数は3件(0.4%)であり、教職員の数値は若干後退した。(前98%→後94%)
学校関係者評価委員会の評価		部活動をやっている生徒は、礼儀もしっかりしており、成果があがっていると感じている。大雪の時など地域のボランティアもお願いしたい。					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		部活動や生徒会を中心に、地域の方々のニーズも聞きながら、地域に貢献できる学校づくりを目指したい。					

平成30年度 自己評価計画書 (最終評価)

石川県立金沢商業高等学校

No. 5

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	評価・集計結果	前期の成果と後期への課題
5 教職員の多忙化に向けて、業務の改善に取り組む。	働き方改革の主旨に則り、業務改善に努め、教職員の残業時間の解消に繋げる。	全教職員	年間を平均して、1月当たり80時間以上を超える残業を行っている教員の人数が  A 0人ある B 1人である C 2人である D 3人以上いる	評価がA以外の場合、対策を検討	毎月の残業記録の集計結果	評価：D 4～1月 計 36人 平均 3.6人	職員の残業時間全体は、前年度より激減しており、特に後期4か月については、月平均2.5人となっている。今後一層の改善策を考え、実行して行きたい。
学校関係者評価委員会の評価		一般企業でも働き方改革は進んでいる。教員の世界も大変であると思うが頑張ってもらいたい。					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		能率の向上の余地はまだある。日々改善を図って行きたい。					